牛の改良と経営安定に努めてまいりたいと考えている。

また、肉用牛については、高品質牛肉の生産を図るため、優良和牛導入事業を推進し、生産基盤に努めてまいりたいと考えている。さらに、優良精液導入事業の推進により、県内トップクラスの地域和牛振興に努めてまいりたい。

今後、これらの優良和牛導入事業と優良精液導入事業のセットにより、効果が発揮されているので、継続して対応してまいりたいと考えている。

肉用牛特別導入事業は、肉用牛資源の確保と和牛農家の振興を図るため、優良雌子牛を導入して、和牛農家へ貸し付けをする事業である。基金の運用状況は、平成17年度当初の貸付頭数残高は49頭、貸付額は215万8000円、平成17年度中に戻された譲渡頭数は17頭で、譲渡金額は748万円、一方、平成17年度の貸付頭数は10頭で、貸付金額は526万1000円、その結果、平成18年3月現在における貸付頭数は42頭となり、貸付金額1957万5000円の見込みとなっている。今後も引き続き基金の運用等、有効活用を努めてまいりたいと考えている。

【大森議員 他の質問事項】

- ・里美高齢者生産活動センターのありようについて
- ・太陽光発電など自然に優しいエネルギー活用推進について

深谷秀峰議員

1 市長の施政方針について

施政方針の中で、早期の一体感の醸成とあるが、中染分署里美出張所の設置を合併特例債事業として予算化された事は、地区の住民にとつての一番の合併効果であると思う。今後、里美だけでなく、水府、金砂郷、太田地区それぞれで合併効果を実現することが、今、一番住民が望んでいることだと思われる。市長の考えを伺いたい。

市長 新市の一体感の醸成のためには、行政が行う施策が、それぞれの地域の特色を生かした中で、公平に公正に執行されなければいけない

と基本的には考えている。

今後、このいかなる理念に基づいて施策を展開していく考えなのかというところであるが、できるだけ合併のメリットを生かす方向での施策の展開ということが必要である。行政の説明責任を果たし、さらには市政懇談会等を通じて、地域の、皆様方のご意見をいただきながら進めていきたいと思っている。

なお、今、法定合併協議会での調整方針に基づき調整を進めてきているが、残り64項目の調整による一体感の醸成 また、今、策定している新総合計画の中でも一体感の醸成を図っていききたいと思っているところである。

この総合計画の中に7つの視点を設けている、その1つに、新市の一体化と地域視点という項目を設け、合併をした場合と合併をしなかった場合とを想定した観点から、考察を入れながら、進めたいと考えている。そのためには、国保あるいは介護の保険料等に見られるように、負担の統一を図って、さらには平等な給付を行わなければ事業が成り立たないものもある。合併において、市民の方々にもサービスを受ける面、及び負担の面でも公平なことが、一体感の醸成においても必要だと考えている。

2 放課後児童クラブについて

本市では、少子化対策、子育て支援対策のひとつとして現在まで5カ所で放課後児童クラブが開設されているが、その現状や不審者対策・真夏の暑さ対策、さらには今後の取り組みについて伺いたい。

保健福祉部長 定員や入級児童数については、3月1日現在で、さたけ児童クラブが定員48名に42名、おた児童クラブが定員75名に71名、ほんだ児童クラブが定員36名に20名、はたそめ児童クラブが定員65名に45名、くめ児童クラブが定員50名に17名となっている。

開設時間は、通常時は放課後となるおおむね2時から6時まで。夏休み、学校の休業期間は、午前9時から午後6時までとなっている。今春の春休みからは、開始時間の延長を行い、午前8時から開始としている。

内容は、1年生から3年生までがともに遊びを中心として読み聞かせやゲーム、宿題等をする時間などとなっている。新年度からは、4年生までを受け入れていく方針である。

次に、安全対策は、児童の行き帰りの安全確保から、保護者の送迎を

また、今後の予定は、指定後に保存管理計画を策定し、これに基づき所有者が保存修理事業を行うことになるが、その際の市の補助については、国、県の補助制度に合わせて対応したいと考えている。市としては、国指定文化財となれば、できるだけ多くの方々へ公開できるように、今後とも所有者と調整をしまいたいと思っています。

【梶山議員 他の質問事項】
 ・地方分権と行政体制の整備について
 ・イベントについて

大森康多議員

1 障害者福祉について

障害者の福祉サービスに寄与する施設は、内田町にオープンする「知的障害者福祉施設」など、民間法人でも支援の動きが出ています。新市においても「障害者福祉計画策定事業」が示され、施設の充実、就労への自立支援に向け新たな方針が出されると思いますが、障

害者施設「虹の家」などの現状課題や障害者の就労支援についても伺いたい。

保健福祉部長 現在、太田地区に「くにみ」、金砂郷地区に「ふれんず」、水府地区に「虹の家」の3施設がある。障害者の一人一人が持っている能力に差は見られるが、心身障害者に対し、社会適応訓練事業などを行ってきている。

運営方法は、「くにみ」が職員2名と嘱託職員など7名で、直営で行っている。「ふれんず」は、嘱託職員3名。「虹の家」は、嘱託職員5名で、「ふれんず」と「虹の家」は、社会福祉協議会に委託をしている。

また、「虹の家」の建屋が老朽化しており、平成18年度は障害者用のトイレの増設など、小規模な補修工事を行いながら日常生活訓練が円滑に行われるように配慮していく。

次に、障害者の就労支援については、現在のところ市内の3施設の訓練生が、就労したことはない。今後とも、関係機関への働きかけや情報提供などに取り組み、雇用の促進に努めてまいりたいと思っている。

2 道路行政について

県道北茨城大子線は、国の方針

による、1.5車線のモデルケースとして採択され、里川地内一部改良を進めているが、高萩、北茨城に至る未改良区間も多く抱え長期間整備が予測される。大子町など関係4市町が一体化し要望活動を進める推進組織が求められると思いがこれらの考えを伺いたい。

また、市道岡見線は路面路肩の痛みがひどく計画的維持補修を強く求め、さらに、小妻地区「ふるさと農道」整備についての現状と今後の計画についても伺いたい。

里美支所長 県道である北茨城大子線の県への整備促進の要望については、現在、日立市、常陸太田市、東海村、3市村のそれぞれの首長、議長、商工会長で構成をする日立都市圏幹線道路整備促進期成会が組織されており、その中で、その他の幹線道路として位置づけし、県に対し要望書を提出している。また、毎年行われている県議会の土木委員会の現地視察の折にも、現状を説明し、本市として早期改良の要望書を提出しているところである。新たに推進母体を組織することについては、今後のこの道路の改良の進捗状況を見ながら検討課題とさせていただきます。

市道岡見線は、今までも部分的な補修工事を実施してきたが、今後も

常陸太田市過疎地域自立促進計画に基づき、計画的な補修を行ってまいりたいと考えている。

小妻町地内のふるさと農道整備は、18年度は、国道349号線から1級村道間の改良工事200メートルと用地買収、総事業費8240万円の予定である。さらに、19年度以降も引き続き事業は予定されており、橋梁、橋をかける工事や山側の工事等を進める予定になっている。

3 畜産行政について

これまでの金砂郷、里美、水府地域は酪農・肉用牛の生産土壌に極めて適し、飼育しやすい環境に恵まれ続けてきた。しかも、これらの地域は酪農青年グループをはじめとし早くから稲転事業達成に寄与するなど、優良牛の個体改良にも努め、その成果は全国から名声を得ている。一方、肉用牛生産基盤は高齢化などによる繁殖農家の減少をたどり年々市場出荷頭数は減少しているが、肉用牛特別導入事業を含む今後の支援について伺いたい。

産業部長 肉用牛については、高品質牛の推進を図るため、牛群改良検定事業や受精卵移植を推進し、乳